家畜衛生だより

令和６年１月発行
最上家畜保健衛生所
最上地域家畜畜産物衛生指導協会
TEL:29-1357　FAX:23-2944

子牛の貧血予防対策をしてますか

～生後１か月間の発育が
思わしくない子牛はいませんか？～

子牛は生後１週間から３週間の間に通常でも貧血になってしまいます。
子牛の発育に母乳やミルクから摂取できる鉄分が追いつかないためです。

増体の良い子牛

鉄分の要求量が多い。
母乳、ミルクからの摂取量だけだと足りないことも。

低体重の子牛

母乳、ミルクの摂取量が少ない。
肝臓中の鉄の貯蓄も極端に少ない。

貧血

⇒抵抗力の低下⇒白痢、肺炎⇒発育遅延

負のループに…

子牛の白痢と貧血の時期は一致することが多く、貧血を予防することで白痢の発生率が減少することもあります。

☞予防策は「鉄分の補給」です

＜鉄剤投与方法＞

鉄剤の注射（注射時期は生後なるべく早めがおすすめです。例）３日齢前後。）

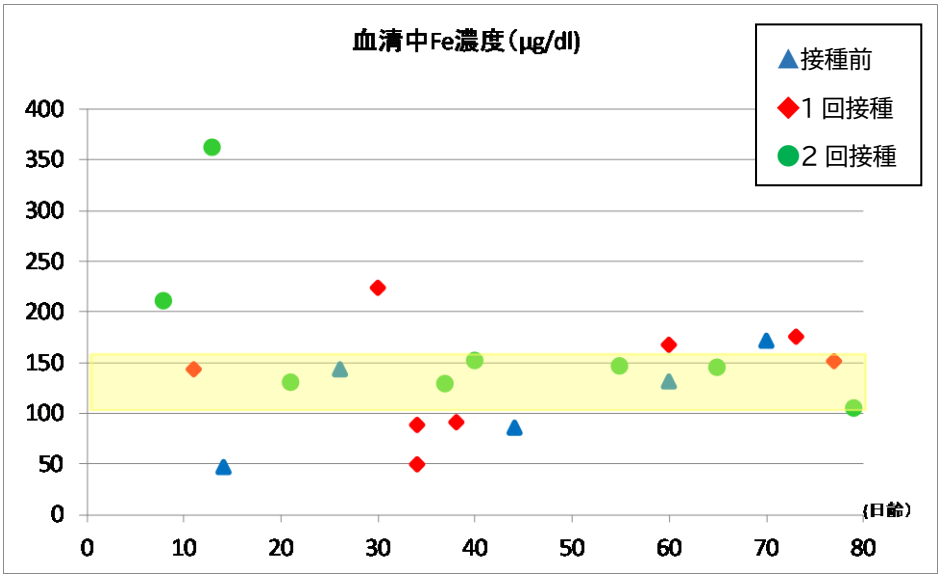
（一部の大腸菌は腸内の鉄分が多くなると活発に増えて下痢を引き起こす可能性があるので経口投与は避けましょう。）

＜注意＞

鉄剤は強力な抗酸化作用があるため、それを防ぐためにビタミン E 製剤や ADE 製剤を同時に投与します。

事例紹介

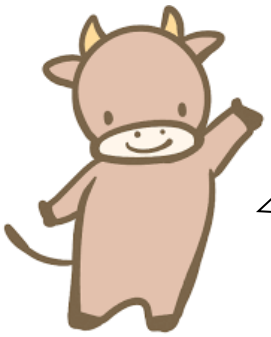
１か月齢ころの子牛の下痢症が多い農場では、その対策として、①鉄剤の接種を０日齢の１回接種と②０日齢と７日齢の２回接種を実施。これらの血清中鉄（Fe）濃度を比較した結果を紹介します。
（R２山形県和牛繁殖・肥育一貫経営移行支援事業より）



・接種前（▲）
⇒30 日齢ころの血清鉄の値が低い個体が散見。
①0 日齢の１回鉄剤接種（◆）
⇒まだ低値の個体があり
②0 日齢と７日齢の２回鉄剤接種（●）
⇒全ての個体で正常範囲

（正常範囲:105～151μg/dl）

鉄剤を２回接種したところ１か月齢ころの下痢症はほぼ無くなり発育も良好に！



貧血予防には鉄剤の投与を検討してみては？？

詳しくはかかりつけの獣医師にご相談ください。

子牛の疾病が減少するかも…

注意

鉄剤は OTC などのテトラサイクリン系抗生物質、アイボメックなどのイベルメクチン製剤と同じ日に投与しないでください。原因は分かりませんが死亡することがあるようです。